

令和7年度 第1回朝来市環境審議会 議事要旨

日時：令和7年7月4日（金）14:00～15:12

場所：朝来市役所本庁舎401, 402 会議室

<出席委員>

石田会長、椿野副会長、岡田委員、岸野委員、清水委員、天野委員、近藤委員、衣川委員、西垣委員、村上彰委員、藤本委員、村上玖委員、藤原委員、小西委員、野田委員

<欠席委員>

増原委員

<事務局>

松本市民生活部部长、村上環境推進室室長、波多野環境推進室副室長、中屋市環境推進室室長補佐、森本環境推進室主査

<議事>

- 1 開会
- 2 委嘱書交付
- 3 あいさつ
- 4 委員・職員の紹介
- 5 副会長の選出
- 6 環境審議会の概要
- 7 諮問
- 8 協議事項
 - （1）本年度のスケジュールについて
 - （2）生物多様性地域戦略の概要について
 - （3）その他
- 9 閉会

<協議内容>

- （1）本年度のスケジュールについて
【事務局】資料1 について説明
質問無し
- （2）生物多様性地域戦略の概要について
【委員】レッドデータブック及びブラックリストは、予算の関係もあると思うが、ぜひ冊子にしてほしい。
【事務局】生物多様性地域戦略の巻末にレッドリスト及びブラックリストを入れるかどうか検討していたが、独立した冊子の方向で考えたい。

【委員】既存のデータを活用したいとあるが、対象をどの範囲まで広げるのか。場合によっては膨大な量になる可能性もあるが。

【事務局】まずは国県の既存データを収集して基礎資料としたい。それに加えて、市の独自事業で確認した生物種のデータを直接収集して補完したい。

【会長】岡田委員からは、別冊で作成してはどうかという提案があったが、その他に別の御意見有る方はおられるか。

特に無いようですので、審議会としては別冊で作成をする方向で事務局には検討願う。ちなみにレッドリストとブラックリストは別別では無く、一緒に1冊とする方向で考えているか。

【事務局】両方含めた構成で考えている。

【委員】リストで掲載されている種はなかなか目に触れないものが多い。それも大事だが、よく目にする生き物ではあるが、実は良い環境の指標となる生き物もたくさんある。そういったことが実は大事なのではないか。古い話になるが20年ほど前に話題になったが、20歳の女子大生にレンゲ・スミレ・タンポポの絵を見せて、その名前を全て正解した人の割合は10～20%だった。その世代が現在親になって子供を育てる世代となっているが、当然子どもたちに自然の事を伝えることは出来なくなっている。家庭で、親子でそういったことを伝えていけることが理想。レッドリストも大事だが、より身近な指標生物も大事。そういうことも盛り込んでもらえたらより良いものができるのではないか。

【会長】ご指摘のとおり。子供たちの自然場慣れが急速に進んでいる。また、レッドデータブックだけではなく、今回策定する生物多様性地域戦略にも取り組んでいく重要な課題であると考えている。

【委員】兵庫県でも希少生物のリストは公開されているが、場所の公開は控えられていることも多い。ただ、存在を知することは環境教育として非常に大事。外来生物についても存在を知ることと同時に、どのように処理すべきかを知ってもらうことも大事。例えば繁殖力が極めて強いナガエツルノゲイトウなどは、但馬にはまだ侵入していないが、県内には侵入している。それを確認したときに、どのように取り扱ったらいいのかを知ってもらうことは非常に大事である。そこまでしっかりと周知できるものであると効果的である。

【会長】単にリスト、名前だけ、ではもったいない。ちゃんと対応まで掲載すべきだと考える。

【委員】大括弧3の情報の収集整理のところで、既存の情報というのは既に得ているのか。

【事務局】情報収集については既に令和4年度からおこなっている。県立人と自然の博物館や土木事務所等に依頼し、朝来市で確認された種のリストを頂いたりして過去のデータの粗データは収集している。これを今後まとめていくことで目録を作ることも必要であると考えている。

【委員】南但馬自然学校の「雨の宮の池の生態系」なども文化財登録されているし、今後「石部神社」なども文化財登録に向けて審議している。そのあたりは、文化財課と連携はしていくのか。

【事務局】文化財課とは密に連携している。今後も生物のホットスポットを確認して文化財指定等にも協力していきたい。

【会長】各自自治体でもレッドデータブックを策定しているが、朝来市ならではのものが無いと特色のあるものがない。情報をきちんと集めて作っていただきたい。

【委員】昨年度、糸井小学校でオオサンショウウオの観察会を実施した。その前に環

境体験学習で川の生物観察会を実施していたため、子どもたちの知識も意識も高く、非常に効果的な学習を行うことができた。こうした自然観察会をおこなえる人材の育成も非常に大事である。「普通種が普通にいる凄さ」を伝えることは大事。

【会長】プログラムを提供する担い手の育成は重要。そういったことも戦略に盛り込んでいければ良い。

以上